

10 研究指導プロセス概要

日本文学・日本語文化専攻【博士前期（修士）課程】

時期	項目	内容・目的等
入学前 (入学試験時)	入試と指導教員決定	<ul style="list-style-type: none"> ●入学試験（専門科目、外国語、口頭試問） 口頭試問は、試験官（専攻責任者、指導希望教員、出題解答領域担当者（複数））による試験解答確認と研究希望領域および研究計画案の確認が中心となる ●研究計画案と指導教員研究領域とのマッチング確認 ●研究科委員会にて、入学試験合否と指導教員決定
1 年 次	4月上旬	研究科と大学院事務課共催ガイダンス ●教職員から、教員紹介及び大学院での学修に関する基本的事項の説明【1時間程度】
		個別履修指導・相談 ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●研究活動に向けた参考文献・資料等の確認と紹介
	(1~2年次) 指導教員の「研究指導」科目を履修	●修士課程2年間にわたり、指導教員の「研究指導」科目を履修 ・研究計画の作成と提出 ・教員指導のもとで研究活動進行 ・修士論文の執筆方法等の確認 なお、研究指導は、学生の状況により、研究指導科目以外の時間でも随時行われる
	6月下旬	学内学会「文学会」春季大会の開催運営と講演会に参加 ●招待講演者の講演会に参加 ・自身の研究活動の参考にする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
	9月下旬	修士論文テーマ決定 ●修士論文テーマを決定し、指導教員に報告 ※この時期に決定できない場合は、遅くとも11月末までには決定する
	11月上旬	学内学会「文学会」秋季大会の開催運営と講演会と研究発表会に参加 (修士課程2年次生は発表報告) ●招待講演者の講演会に参加 ●修士課程2年次生による研究発表会に参加（発言・質問可） ・自身の研究活動の参考にする ・自身が2年次に行うことを具体的にイメージする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
3月上旬	学内学会「文学会」の反省会と引継ぎに参加 ●文学研究科修了生（博士学位授与者など）が、在学時の経験・本人の近況・後輩へのアドバイスなどについて説明・報告 ・学修・研究活動・進路選択の参考にする	
2 年 次	4月上旬	研究科と大学院事務課共催ガイダンス 1年次と同様。変更点を中心に説明【1時間程度】 ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●修士論文テーマの確認 ●研究の進捗状況確認（課程修了に向けたスケジュールの確認）
	6月下旬	学内学会「文学会」春季大会の開催運営と講演会に参加 ●1年次と同様。招待講演者の講演会に参加 ・自身の研究活動の参考にする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
	9月下旬	修士論文中間報告 ●修士論文提出希望者は、指導教員に修士論文の中間報告をするとともに、その基軸となる部分の発表のレジュメを提出 ●指導教員と修士論文提出希望者との間で、発表内容の確認
	11月上旬	修士論文中間発表会 (学内学会「文学会」秋季大会の研究発表会を活用して) ●以後の修士論文に展開する内容の研究発表 ●発表および質疑応答 ・参加者：研究科教員・修士課程学生・博士後期課程学生・その他 ・研究発表【25分】：修士論文の基軸となる内容等 ・質疑応答【15分~20分程度】：教員および参加者（他の大学院生等）から、主に改善点の指摘等を受ける
	12月~ 1月上旬	修士論文加筆・修正⇒完成へ ●修士論文中間発表会において指摘された要改善点の加筆・修正 ●論文原稿の完成 ●指導教員による論文原稿の確認
	1月中旬	修士論文受理 ●提出論文の受理（1月文学研究科委員会にて） ●研究科は、学位審査委員会を組織（主査1名・副査2名の決定。主査は指導教員が務める）
	2月上旬	最終審査 ●論文審査および最終試験ならびに学力確認の実施 ・審査員および試験官：主査1名・副査2名 ・最終試験は口頭試問により実施（20分の説明と30~40分の質疑応答） ・学位審査委員会での評価は、審査員3名の合議により決定
	2月中旬	合否決定 ●学位審査委員会が審査結果報告書を作成し、文学研究科委員会に提出 ●文学研究科委員会が報告に基づき審議し、合否を決定

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある